

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394000067		
法人名	医療法人社団 誠淳会		
事業所名	グループホーム 新城作手の家(1号館)		
所在地	愛知県新城市作手田原字道上17-1		
自己評価作成日	令和3年10月10日	評価結果市町村受理日	令和3年11月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajikokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&jiyosyoCd=2394000067-00&serviceCd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県新城市黒田字大岡132番地2		
聞き取り調査日	令和3年11月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

東三河の豊かな自然の中、季節を感じながら生活していきます。野原や田畑が身近にあり、散歩や外気浴など気分や体調に応じて楽しんでいただいています。生活にメリハリを感じていただけるように、家庭菜園での作業や、レクリエーションを通じ気分転換できるようにしています。また周辺でとれた旬の有機野菜を食事や、おやつに提供することも度々あります。その人らしくできることはしていただきながら、できる限り希望に沿った生活ができるように支援したいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」
 ②軽減要件確認票
 ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	環境(人的、物的)は最大の介護用品、を理念に掲げ事務所に貼り出し常に目に入るようにしています。作手の家通信などを通じ外部にも理念を公示し意識できるようにしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の行事や回覧などの情報を提供していただいています。コロナ禍で地域との交流が少なくなっていますが、安全性が確認できればコロナ対策を実行し交流する機会を設けています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所相談や地域の行事への参加を通じ、認知症の理解や支援をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため推進会議を中止することもあったが、施設の取り組みについては、報告書を送り理解や評価のコメントを書面で受け付け意見を参考にし対応している。議事録は玄関にて自由に見ることが出来るようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議の議事録は担当へ必ず報告し、意見を伺っています。また相談窓口を利用し、意見やアドバイスをもらっています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化委員会を定期的に実施。社内研修で学び、将来身体拘束につながるであろうグレイゾーンのケアについての検討・対策の実施などで身体拘束をしないケアに役立っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼、研修、職員会議などを通じ学ぶ機会を持つとともに、アンケートなど施設内がどのような状態あるか自己分析したり、問題の抽出を心がけています。ストレスをためないための研修を実施しており、法人内には虐待根絶のための窓口もあります。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、社内研修に基づき、学んでいます。成年後見人と連携しご本人にとって、安心できる施設であるように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結・改定時には、口頭での説明に加え、文章などでお知らせをすることで理解を図っています。疑問や不安についてはいつでも応じることを伝えています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に通信を発行し様子を伝えることで、ご家族は、利用者の状態を把握され、何かあるときには電話や、手紙などで意見を頂いています。面会が可能な時には直接ご意見を伺うようにしています。玄関には意見箱も設置しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やカンファレンス、その日の申し送りなどから常に意見を聴けるようにしています。その場に居ない職員には、意見・提案をノートに書いて共有しています。提案の実施に対する結果もノートに書いて業務に反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の就業規則をもとに就業環境を整備し、実績や勤務状況に応じて、給与や賞与に反映されています。法人の給与勤務疑問110番があり、相談できる環境になっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は必ず全員が理解できるようにしています。また外部研修や資格の習得に関する情報も提示・参加の声掛けもしています。参加時にはシフト調整など協力をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍、外部との接触は限られるが、法人のエリア会議やリモートでの研修を通じ情報の収集や相談をしています。エリアマネージャーや、他の施設管理者、ケアマネージャーなど相談・協力が出来ています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の情報をもとに、ご本人の日常の様子を聞きながら、ゆっくり慣れていただけるようにしています。安心できるように好きなことや、これまでの生活歴や人との関係を生かせるような日常が過ごせるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の申し込みに至る時点で施設の情報を分かりやすくパンフレットなどで説明。ご家族の生活や環境などを電話や面談で聞き取りフェイスシートの作成に役立てたりケアプランに反映させたりしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の聞き取りや、生活の様子や環境など事前の情報を職員で共有し、自身で出来る事と、支援する事を話し合い入居前の準備をするようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事はして頂くことを基本に職員見守りのもと、利用者同士協力しながら生活リハビリに参加していただいています。役割を持ち達成感を持っていただけるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	機会があれば、気分転換に散歩に連れ出していただいたり、お墓参りやお祝い事に参加できるようにしています。専門外来などの受診についてもご家族の力を借りています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	引き続きのコロナ禍で外出が思うようにできていませんが、電話や、手紙などを通じて家族や友人との交流することを支援しています。面会についても様子を伺いながら、細かい規制を設けられる限り実施しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が誘い合って、仲良くゲームや将棋をされることが多く良い関係が保てているので継続できるよう支援しています。孤立しそうな利用者には職員がレクリエーションや作業に誘うこともあります。御夫婦での入居は2人での時間を持てるように支援しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方の状況把握を心掛け、ご本人についての相談や、家族の思いなど機会があれば支援出来るように心がけています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本的には、ご本人にどうしたいかの問いかけを心掛けています。本人が判断できないことは、家族や関係者などに相談しています。その時の判断だけでなく時間をおいて様子から意向を読み取ることをしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報や家族からの聞き取り、フェイスシートなどから情報をえています。日常の会話からも今までの様子を聴き取り情報に反映するようにもしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録をもとに、生活の状態把握に努めています。生活のリズムが整うように、声かけや、促しの働きかけをしていますが、日常と様子が異なる時には関係者で情報を共有し状況に対応するよにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にご本人からの聞き取り、家族の意向を確認、介護者、医療関係などカンファレンス、サービス担当者会議を実施。ケアプランの作成をしています。状態に変化のある時は、期間にかかわらず対応しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・介護詳細記録・バイタル測定・排泄記録は毎日記入しています。その他問題や連絡、結果等は送り帳を使って職員間でのケアの実践、結果報告に役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時や受診時などご家族が対応できない時は対応しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍地域の人々との交流は減っているが、散歩時野草を取って楽しんだり、自分たちで有機野菜を育て、季節の風物や懐かしい食べ物などを提供し喜んでいただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携の診療所を定期的に受診。受診には職員が必ず付き添い細かな日常の様子も伝えていきます。専門医が必要な時は、情報提供を受け、ご家族と相談の上受診しています。夜間・休日などの緊急時は、電話で相談することもあります。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員には週一度、体調管理や健康状態を確認してもらっています。看護職から見た意見をもらったり、医療的な処置や薬の相談、受診の付き添いなども支援してもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	コロナ禍のため入院の付き添いや面会が規制されていますが、可能な限り病院関係者への情報を伝えるようにしています。退院後の入居についても早い段階で受け入れの判断を伝え情報をもらい備えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、重度化した時、看取りを念頭に、終末期にはどのように過ごすことができるのかを伝えるようにしています。心身の状態が変わった時には、様子に合わせ、今後の見通しや可能性、家族の意向などを聞くようにしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内の研修を定期的に行っています。急変時の対応を事務所や、目につくところに貼り、緊急時の対応ができるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非難訓練を年2回実施しています。社内研修や避難訓練をもとに緊急災害時などのディスカッションをし問題点や対策を話し合っています。推進会議や、地域の方を通じて情報をいただき、協力のお願いをしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修や朝礼で注意喚起しています。排泄や入浴については混乱してしまう人もいたため、特にきちんと声をかけるようにしています。入室時には必ずご本人の確認をとっています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思を尊重し「どうしたい？」と常に聞くようにしています。ご本人の意思がわからない時は、選択肢のなかから選ぶことも多いです。うまくいかない時は時間をかけたり、表情から読み取るようにもしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活の中で無理のない範囲で対応しています。起床時間や食事時間などは、ご本人の体調やペースに合わせて支援しています。入浴についても可能な限り希望に沿うようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容や更衣などの声掛けをし、ご本人が出来る力を発揮できるように支援しています。好きな服を選んでいただいたり、床屋さんに希望を提示したりもできています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の物や、行事食で楽しめるようにしています。昔食べたものや、自分たちで作った野菜や、散歩の途中で採った山菜やなどが食卓に上がることも多いです。簡単な下処理や、食器拭き、職員と利用者でお菓子作りなどもしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、どれだけ飲食したか把握できるように記録しています。水分は時間やタイミングを変え摂取できるように心がけています。刻みやトロミ、ミキサー食など個人の能力に合わせて形状や量を変えて提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせて毎回、口腔ケアをしています。できる方は自分で磨いた後、歯科衛生士の有資格者に指導してもらい対応しています。必要時にはかかりつけの歯科で受診するようにしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎回の記録から、排泄リズムを考え、見守り、タイミングを見計らった声掛け誘導を行っています。ご本人の状態に応じた紙パンツやパッドを使い、使い方の検討をし、使用頻度を減らせるように話し合いながら、支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動と水分摂取を基本に、食事内容に繊維質の摂取を心がけています。便秘時には、腹部のマッサージや、医療に相談し、整腸剤の服用をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本週3回の入浴ですが、ご本人の希望があればできる限り優先しています。時には入浴剤やゆず湯なども実施しています。時間にとらわれずその人のペースで入浴していただいています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の状態により、自由に休息出来るようにしています。夜間の睡眠リズムが乱れないように適度な休息時間になるように働きかけています。布団干しや、季節に合わせた寝具、居室の室温のチェックをしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は自己管理せず、必ず職員が渡し服薬してもらっています。その過程で複数の職員がかかわるため、服薬の内容、指示は周知し、情報はいつでも見られるようになっていきます。服薬までには3度チェックし、間違えのないように努めています。症状の変化は必ず相談し医師の指示を受けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や様子から、できること、好きな物、事などを読み取り、出来る限り提供しています。おやつに饅頭を作ったり、コーヒー、やタバコ、ゲーム、将棋、歌の鑑賞などご本人が得意(したい)なことをして気分転換しています。食器拭きなどのお手伝いで達成感を持っていただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍で外出の機会が少なくなっていますが散歩は日常的に実施。コロナ対策をして、地区の弘法様祭りや、個人宅の庭で花見をしたり、地域の催しに参加ができました。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は施設預かりとなっていますが、能力に応じ対応しています。外出できず直接お金を使うことはできませんが、希望があれば買い物代行をし、必要な物は手に入るようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話は申し出があればかけることが出来るようにしています。かける時間はご家族の時間も配慮し、タイミングが悪ければ待っていただくこともあります。手紙は職員が代理に投函しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コロナ対策として、換気に気を付けています。フロアの壁や空間はレクリエーションで作ったものや季節感のあるものを飾っています。玄関には散歩で摘んだ花や、利用者作品の苔玉を飾っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の居室、居間のソファ、掘りごたつ、窓辺に置いた椅子や、玄関、外のベンチ等ちょっとした休憩スペースがあり気ままに座って休んでおられます。ほり炬燵は仲間ですくくランプや、カードゲームをする場所にもなっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	「できるだけ、使っていたものを持ってきてください。」とお願いしています。テレビや書籍、携帯、故人の写真や、家族からの色紙、レクリエーションで作ったもの等それぞれが好きな物を飾っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの身体能力に応じて、家具やベッドを配置しています。転倒リスクの高い方は手すりを付けたり、シルバーカーの位置も配慮しています。トイレの位置が誘導しやすいように、表示してあります。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394000067		
法人名	医療法人社団 誠淳会		
事業所名	グループホーム 新城作手の家(2号館)		
所在地	愛知県新城市作手田原字道上17-1		
自己評価作成日	令和3年10月10日	評価結果市町村受理日	令和3年11月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&jiyosyoCd=2394000067-00&serviceCd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県新城市黒田字大岡132番地2		
聞き取り調査日	令和3年11月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

東三河の豊かな自然の中、季節を感じながら生活していきます。野原や田畑が身近にあり、散歩や外気浴など気分や体調に応じて楽しんでいただいています。生活にメリハリを感じていただけるように、家庭菜園での作業や、レクリエーションを通じ気分転換できるようにしています。また周辺でとれた旬の有機野菜を食事や、おやつに提供することも度々あります。その人らしくできることはしていただきながら、できる限り希望に沿った生活ができるように支援したいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」
 ②軽減要件確認票
 ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	環境(人的、物的)は最大の介護用品、を理念に掲げ事務所に貼り出し常に目に入るようにしています。作手の家通信などを通じに外部にも理念を公示し意識できるようにしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の行事や回覧などの情報を提供していただいています。コロナ禍で地域との交流が少なくなっていますが、安全性が確認できればコロナ対策を実行し交流する機会を設けています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所相談や地域の行事への参加を通じ、認知症の理解や支援をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため推進会議を中止することもあったが、施設の取り組みについては、報告書を送り理解や評価のコメントを書面で受け付け意見を参考にし対応している。議事録は玄関にて自由に見ることが出来るようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議の議事録は担当へ必ず報告し、意見を伺っています。また相談窓口を利用し、意見やアドバイスをもらっています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化委員会を定期的に実施。社内研修で学び、将来身体拘束につながるであろうグレイゾーンのケアについての検討・対策の実施などで身体拘束をしないケアに役立っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼、研修、職員会議などを通じ学ぶ機会を持つとともに、アンケートなど施設内がどのような状態あるか自己分析したり、問題の抽出を心がけています。ストレスをためないための研修を実施しており、法人内には虐待根絶のための窓口もあります。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、社内研修に基づき、学んでいます。成年後見人と連携しご本人にとって、安心できる施設であるように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結・改定時には、口頭での説明に加え、文章などでお知らせをすることで理解を図っています。疑問や不安についてはいつでも応じることを伝えています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に通信を発行し様子を伝えることで、ご家族は、利用者の状態を把握され、何かあるときには電話や、手紙などで意見を頂いています。面会が可能な時には直接ご意見を伺うようにしています。玄関には意見箱も設置しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やカンファレンス、その日の申し送りなどから常に意見を聴けるようにしています。その場に居ない職員には、意見・提案をノートに書いて共有しています。提案の実施に対する結果もノートに書いて業務に反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の就業規則をもとに就業環境を整備し、実績や勤務状況に応じて、給与や賞与に反映されています。法人の給与勤務疑問110番があり、相談できる環境になっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は必ず全員が理解できるようにしています。また外部研修や資格の習得に関する情報も提示・参加の声掛けもしています。参加時にはシフト調整など協力をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍、外部との接触は限られるが、法人のエリア会議やリモートでの研修を通じ情報の収集や相談をしています。エリアマネージャーや、他の施設管理者、ケアマネージャーなど相談・協力が出来ています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の情報をもとに、ご本人の日常の様子を聞きながら、ゆっくり慣れていただけるようにしています。安心できるように好きなことや、これまでの生活歴や人との関係を生かせるような日常が過ごせるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の申し込みに至る時点で施設の情報を分かりやすくパンフレットなどで説明。ご家族の生活や環境などを電話や面談で聞き取りフェイスシートの作成に役立てたりケアプランに反映させたりしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の聞き取りや、生活の様子や環境など事前の情報を職員で共有し、自身で出来る事と、支援こととする事を話し合い入居前の準備をするようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事はして頂くことを基本に職員見守りのもと、利用者同士協力しながら生活リハビリに参加していただいています。役割を持ち達成感を持っていただけるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	機械があれば、気分転換に散歩に連れ出させていただいたり、お墓参りやお祝い事に参加できるようにしています。専門外来などの受診についてもご家族の力を借りています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	引き続きのコロナ禍で外出が思うようにできていませんが、電話や、手紙などを通じて家族や友人との交流することを支援しています。面会についても様子を伺いながら、細かい規制を設けられる限り実施しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が誘い合つて、仲良くゲームや将棋をされることが多く良い関係が保てているので継続できるよう支援しています。孤立しそうな利用者には職員がレクリエーションや作業に誘うこともあります。御夫婦での入居は2人での時間を持てるように支援しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方の状況把握を心掛け、ご本人についての相談や、家族の思いなど機械があれば支援出来るように心がけています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本的には、ご本人にどうしたいかの問いかけを心掛けています。本人が判断できないことは、家族や関係者などに相談しています。その時の判断だけでなく時間をおいて様子から意向を読み取ることをしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報や家族からの聞き取り、フェイスシートなどから情報をえています。日常の会話からも今までの様子を聴き取り情報に反映するようにもしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録をもとに、生活の状態把握に努めています。生活のリズムが整うように、声かけや、促しの働きかけをしていますが、日常との変化が大きい時には関係者で情報を共有し状況に対応するよにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にご本人からの聞き取り、家族の意向を確認、介護者、医療関係などカンファレンス、サービス担当者会議を実施。ケアプランの作成をしています。状態に変化のある時は、期間にかかわらず対応しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・介護詳細記録・バイタル測定・排泄記録は毎日記入しています。その他問題や連絡、結果等は送り帳を使って職員間でのケアの実践、結果報告に役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時や受診時などご家族が対応できない時は対応しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍地域の人々との交流は減っているが、散歩時野草を取って楽しんだり、自分たちで有機野菜を育て、季節の物や懐かしい食べ物などを提供し喜んでいただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携の診療所を定期的に受診。受診には職員が必ず付き添い細かな日常の様子も伝えていきます。専門医が必要な時は、情報提供を受け、ご家族と相談の上受診しています。夜間・休日などの緊急時は、電話で相談することもあります。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員には週一度、体調管理や健康状態を確認してもらっています。看護職から見た意見をもらったり、医療的な処置や薬の相談、受診の付き添いなども支援してもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	コロナ禍のため入院の付き添いや面会が規制されていますが、可能な限り病院関係者への情報を伝えるようにしています。退院後の入居についても早い段階で受け入れの判断を伝え情報をもらい備えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、重度化した時、看取りを念頭に、終末期にはどのように過ごすことができるのかを伝えるようにしています。心身の状態が変わった時には、様子に合わせ、今後の見通しや可能性、家族の意向などを聞くようにしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内の研修を定期的に行っています。急変時の対応を事務所や、目につくところに貼り、緊急時の対応ができるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非難訓練を年2回実施しています。社内研修や避難訓練をもとに緊急災害時などのディスカッションをし問題点や対策を話し合っています。推進会議や、地域の方を通じて情報をいただき、協力のお願いをしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修や朝礼で注意喚起しています。排泄や入浴については混乱してしまう人もいたため、特にきちんと声をかけるようにしています。入室時には必ずご本人の確認をとっています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思を尊重し「どうしたい？」と常に聞くようにしています。ご本人の意思がわからない時は、選択肢のなかから選ぶことも多いです。うまくいかない時は時間をかけたり、表情から読み取るようにもしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活の中で無理のない範囲で対応しています。起床時間や食事時間などは、ご本人の体調やペースに合わせて支援しています。入浴についても可能な限り希望に沿うようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容や更衣などの声掛けをし、ご本人が出来る力を発揮できるように支援しています。好きな服を選んでいただいたり、床屋さんに希望を提示したりもできています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の物や、行事食で楽しめるようにしています。昔食べたものや、自分たちで作った野菜や、散歩の途中で採った山菜などが食卓に上がることも多いです。簡単な下処理や、食器拭き、お菓子作りなどもしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、どれだけ飲食したか把握できるように記録しています。水分は時間やタイミングを変え摂取できるように心がけています。刻みやトロミ、ミキサー食など個人の能力に合わせて形状や量を変えて提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせて毎回、口腔ケアをしています。できる方は自分で磨いた後、歯科衛生士の有資格者に指導してもらい対応しています。必要時にはかかりつけの歯科で受診するようにしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎回の記録から、排泄リズムを考え、見守り、タイミングを見計らった声掛け誘導を行っています。ご本人の状態に応じた紙パンツやパッドを使い、使い方の検討をし、使用頻度を減らせるように話し合いながら、支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動と水分摂取を基本に、食事内容に繊維質の摂取を心がけています。便秘時には、腹部のマッサージや、医療に相談し、整腸剤の服用をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本週3回の入浴ですが、ご本人の希望があればできる限り優先しています。入浴剤やゆず湯なども実施しています。時間のとられその人のペースで入浴していただいています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の状態により、自由に休息出来るようにしています。夜間の睡眠リズムが乱れないよう、適度な休憩時間になるように働きかけています。布団干しや、季節に合わせた寝具、夜間の室温のチェックをしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は自己管理せず、必ず職員が渡し服薬してもらっています。その過程で複数の職員がかかわるため、服薬の内容、指示は周知し、情報はいつでも見られるようになっていきます。服薬までには3度チェックし、間違えのないように努めています。症状の変化は必ず相談し医師の指示を受けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や様子から、できること、好きな物、事などを読み取り、出来る限り提供しています。おやつに饅頭を作ったり、コーヒー、やタバコ、ゲーム、将棋、歌の鑑賞などご本人が得意(したい)なことをして気分転換しています。食器拭きなどのお手伝いで達成感を持っていただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍で外出の機会が少なくなっていますが散歩は日常的に実施。コロナ対策をして、地区の弘法様祭りや、個人宅の庭で花見をしたり、地域の催しに参加ができました。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は施設預かりとなっていますが、能力に応じ対応しています。外出できず直接お金を使うことはできませんが、買い物代行をし、必要な物は手に入るようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話は希望があれば対応しています。かける時間はご家族に配慮し、タイミングが悪ければ待っていただくこともあります。手紙は職員が代理に投函しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コロナ対策として、換気に気を付けています。フロアの壁や空間はレクリエーションで作ったものや季節感のあるものを飾っています。玄関には散歩で摘んだ花や、利用者作品の苔玉を飾っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の居室、居間のソファ、掘りごたつ、窓辺に置いた椅子や、玄関、外のベンチ等ちょっとした休憩スペースがあり気ままに座って休んでおられます。ほり炬燵は仲間です。楽しくトランプや、カードゲームをする場所にもなっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	「できるだけ、使っていたものを持ってきてください。」とお願いしています。テレビや書籍、携帯、故人の写真や、家族からの色紙、レクリエーションで作ったもの等それぞれが飾っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの身体能力に応じて、家具やベッドを配置しています。転倒リスクの高い方は手すりを付けたり、シルバーカーの位置も配慮しています。トイレの位置が誘導しやすいように、表示してあります。		